

すべての子どもに学ぶ場を！外国人の子どもの不就学ゼロをめざして

小島 祥美 (東京外国語大学)

0. 事前学習 (予習)

1. 人生を変える子どもたちとの出会い

2. 再び学生になって

- ・学校に通っていない、社会から「見えない」子どもたち
- ・国際協力のなかで、国内外での日本の「顔」の違い
- ・岐阜県可児市との運命の出会い♥

3. 子どもたちとの約束を胸に、挑戦したこと

- ・行政 (可児市、可児市教育委員会、岐阜県、岐阜県教育委員会) および民間団体 (可児市国際交流協会、岐阜県国際交流センター) との協働による調査と位置づけ

↑ 毎月の報告と定例会を開催

- ・外国人の子どもにかかわる「誰もが知る調査」に
- ・当事者に会えるコトを生かした工夫
- ・結果は当事者ファースト、そして社会にも。事実を正確に、誠意と信念をもって!

4. 願いをカタチに、「不就学ゼロ」へ!

- ・調査拒否ゼロ、外国人市民の「期待」
- ・可児の皆さん (住居から食材まで)
- ・市の関係者の皆さん
- ・当時のみんなの想いをカタチ!
(分掌規程の変更、「お仕事」に位置付け)



5. 解決をめざして、今取り組むこと

- ・誰一人取り残さない「不就学ゼロ」に向けて
- ・外国 (人) 学校 / 不就学の子どもと健康

■チャレンジ問題

Q1. Patrícia e Marcelo são bebês gêmeos. Cada uma toma 4 mamadeiras por dia.

Quantos mamadeiras os bebês juntos tomam por dia.

Solução:

Resposta:

Q2. Vamos calcular o quociente?

53:2=

84

2

予習（第7回:10月28日分） 資料を参考にして、確認しましょう。

1. 2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰ひとり取り残さない」を理念としています。教育分野のターゲット達成に向けた取組の進捗状況をとりまとめた年次評価2020が、6月に発表されました。これによると、学校に通っていない子どもについて、「サハラ以南アフリカ」が、最も多い地域と報告されています。その数と比率（何人に一人）を確認しましょう。

【資料】グローバルエデュケーションモニタリングレポート概要（日本語版）26ページ

https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000373721_jpn

2. 日本に暮らす外国人の子どもについて、文部科学省は2019年に初めて就学状況を把握しました。その結果から、学校に通っていない（就学以外）子どもの数と比率（何人に一人）を確認しましょう。

【資料】文部科学省「外国人の子供の就学状況等調査結果（確定値）概要」2ページ

https://www.mext.go.jp/content/20200326-mxt_kyousei01-000006114_01.pdf

3. 国語や社会などを学習するための「教科学習言語能力」について、学年相当レベルに達するためには何年くらい必要か、確認しましょう。

【資料】文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」4ページ

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/24/1405244_1.pdf

資料1 住民への案内文（日本語版）

在住外国人の保護者の方へ

可児市での調査にご協力をお願いします

現在日本全国で約180万人の外国人が暮らしています。そして岐阜県可児市には約4,400人の外国人が暮らし、可児市人口の約4.5%が外国人住民です。

私たちは、みなさんのお子さんの様子や現状について調査を行い、お子さんが元気に育ち、日本に暮らし続けても帰国しても、安心して勉強できるような街づくりを実現するために役立てたいと考えています。

この調査は、可児市、可児市教育委員会、可児市国際交流協会、岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県国際交流センターの協力を得て、実施します。また、プライバシーの保護に十分に配慮し、個人を特定できる報告は一切行いませんので、ご安心ください。もちろんこの調査は、警察や入国管理局ともまったく関係ありません。

保護者のみなさんはお忙しいと思いますが、どうぞご協力をよろしくお願いします。また、この調査に対する質問や意見があれば、遠慮なく下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。

【日程】2003年5月

みなさんの家に担当者がうかがいます

【訪問者】小島祥美 他、可児市国際交流協会のメンバー

【問い合わせ先】

〒509-0203 可児市下恵土1198-1 総合会館分室 東棟1F

可児市国際交流協会内 子ども調査

TEL : 0574-60-1200 FAX : 0574-60-1230 E-mail:kodomochousa@mbh.nifty.com

【調査責任者】大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 中村安秀

【調査担当者】大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程 小島祥美

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2
大阪大学大学院 人間科学研究科 国際協力論講座

TEL : 06-6879-4033 FAX : 06-6879-8064

基本情報(登録情報から転記)

1	個人コード(連番)	(2003年度・後期)
2	子どもの氏名	
3	保護者(世帯主)氏名	
4	住所(居住地)	可児市

----- 調査終了後切り取り、上部は可児市で保管 -----

入力情報(事前記入)

入力コード

21	個人コード(連番)	(2003年度・後期)	21	任意コード
22	性別	男 女	22	1.男 2.女
23	生年月日	年 月 日生	23	0000/00/00
24	年齢	才 (2004年4月1日現在)	24	2004年4月1日現在
25	居住地区(校区)		25	可児市コード
26	子どもの国籍	ブラジル 韓国・朝鮮 中国 フィリピン ペルー 他()	26	可児市コード

訪問記録(調査票最終記載)

入力コード

31	居住調査 年月日	2004年 月 日 調査員:	31	0000/00/00
32	子どもへの調査 年月日	2004年 月 日 調査員:	32	0000/00/00
33	保護者への調査 年月日	2004年 月 日 調査員:	33	0000/00/00
34	居住実態	無(帰国、別人転居、転居、)・有	34	1.無 2.有
35	居住実態判断根拠 (確認方法等)	(確認相手)	35	任意コード
	不在① 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在② 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在③ 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在④ 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在⑤ 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在⑥ 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		
	不在⑦ 月日・時間	2004年 月 日 午前・午後 時 分/調査員:		

基本情報(学校情報から転記)

6	在籍学校名	
7	学年(基準日)	

----- 調査終了後切り取り、上部は可児市で保管 -----

項目(学校に通う子ども①)		入力コード	
41	在籍校 Matriculado	学校名: Nome da escola	41 任意コード
42	在籍学年 Grau da escola	年生 Grau	42 任意コード
43	学校の好きなところ Coisas que gosta da escola		43 自由記載を そのまま転 記
44	学校の嫌いなところ Coisas que não gosta da escola		44
45	今通っている学校以外の通 学経験 Escolas que já frequentou, fora a da pergunta 41	経験なし Não frequentou・経験あり Frequentou	1.無 2.有
		6歳-----7歳-----8歳-----9歳-----10歳 --11歳-----12歳-----13歳-----14歳	45 年齢別任意 コード
46	学校(授業)が終わった後、 過ごすところ Aonde fica depois da escola(após o término da aula)	家に帰る volta para casa ・ 家に帰らない Não volta para casa	1.帰る、2.帰 らない
		過ごす場所: 託児所・児童クラブ、(vai à: creche jidou kurabu 回数: 週 回 quantas vezes: p/ semana vezes	46 任意コード
47	学校以外の習い事 atividades extras(natação, curso de línguas, etc.)	ない não pratico ・あり pratico	1.無 2.有
		内容 o que pratica: 回数: 週 回 quantas vezes: p/ semana vezes	自由記載を そのまま転 記

調査終了後切り取り、上部は可児市で保管

項目(不就学の子ども)		入力コード	
51	学校へ通っていない Não frequenta a escola	学校へ行かなくなった年齢: 才 Quantos anos tinha quando parou de ir à escola? 最後に行っていた学校名: Nome da última escola que frequentou: 学年 Série:	51 年齢コード 任意コード
52	日常の過ごす場所 Local onde fica a maior parte do dia <自由記載(聞き取り)>		52 自由記載をそのまま転記
53	学校へ通わない理由 Motivo pelo qual não frequenta a escola <自由記載(聞き取り)>		53 自由記載をそのまま転記
54	日本や外国での就学経験 escolas do Japã o/ estrangeiras que frequentou	経験なし Não frequentou・経験あり Frequentou 6歳 --- 7歳 --- 8歳 --- 9歳 --- 10歳 --- 11歳 --- 12歳 --- 13歳 --- 14歳	1.無 2.有 54 年齢別任意コード
55	学校以外の習い事 atividades extras(computaçã o, curso de línguas, nataçã o, etc.)	なし não pratica ・ ある pratica 内容 o que pratica:	1.無 2.有 55 自由記載をそのまま転記

調査終了後切り取り、上部は可児市で保管

調査項目(共通①保護者への質問)		入力コード
61	今子どもが通う学校 についての意見など Opiniões sobre a escola que a criança frequenta	◎良い点 pontos positivos
		◎悪い点 pontos negativos
62	子どもの就学状況に関する こと Com relação ao estudo da criança	【就学・学校選択の理由 Por que escolheu esta escola?】
		【不就学の理由 Por que não vai à escola?】
63	子どもの教育や学校のこと で 困ったこと、悩んだこと Dúvidas, dificuldades na educação das crianças	ない não tenho ・あり tenho
		内容 explicar
64	学校以外の学習(習い事) atividades extras(curso de lí nguas, computação, nataçã o,etc.)	ない não pratico ・あり pratico
		内容 explicar
項目(共通①)		入力コード
71	出生地 Local de nascimento	日本 Japão ・ 外国 Outro país
72	日本での子どもの滞在年数 Há quantos anos a criança vive no Japão?	1年未満 ・ 1-3年 ・ 4-6年 ・ 7-9年 ・ 10年以上
		日本生まれずっと在住 ・ 来日年齢: 才 desde que nasceu com quantos anos veio ao Japão?
73	一時帰国の経験 Já voltou temporariamente ao Brasil?	経験なし Não frequentou ・ 経験あり Frequentou
		a.帰国前と帰国後の居住地の変化 Mudou de casa? Aonde morava: (帰国前antes de ir)(帰国後depois de voltar)
	b.帰国前と帰国後の就学状況の変化 Mudou de escola? Aonde estudava: (帰国前antes de ir)(帰国後depois de voltar)	
74	幼・保育園への通園経験 Frequência em Pré-primário ou creche	経験なし Não frequentou ・ 経験あり Frequentou
		場所: 日本 ・ 外国 ・ 日本と外国の両方 Local: Japão estrangeiras Japão&estrangeiras

61 自由記載を
そのまま転
記62 自由記載を
そのまま転
記

1.無 2.有

63 自由記載を
そのまま転
記

1.無 2.有

64 自由記載を
そのまま転
記71 1.日本
2.外国

任意コード

72 任意コード

1.無 2.有

73 任意コード

1.無 2.有

74 任意コード

資料3 2003年度～2004年度の調査実施時間等

出典／「行政・民間団体・大学研究者による協働研究・調査 外国人の子どもの教育環境に関する実態調査報告書（2004年5月）」「外国人の子どもの教育環境に関する実態調査＝2004年度 調査報告書（2005年3月）」より（一部加筆）

表1 2003年前期の実施時間と調査終了数

月 日	曜日	調査実施時間		調査終了数(累積数)	
		時間帯	計(時)	居住状況調査	就学実態調査
5月14日	水	10:30-12:00、13:30-18:00	6	13	7
5月15日	木	13:00-16:00、19:00-21:00	5	21	14
5月16日	金	14:00-16:00、20:00-22:30	4.5	44	27
5月17日	土	16:00-18:00、20:00-22:30	4.5	73	50
5月18日	日	10:00-19:00	9	84	59
5月19日	月	8:00-10:00、14:00-16:00、20:00-22:30	6.5	107	72
5月20日	火	9:00-12:00、14:00-17:00、20:00-22:00	8	117	78
5月21日	水	9:00-12:00、14:00-22:00	10	161	109
5月22日	木	9:30-10:30、13:00-21:00	9	184	124
5月23日	金	10:00-11:00、20:00-23:00	4	198	136
5月24日	土	9:00-13:00、15:00-17:00、19:00-22:00	9	220	156
5月25日	日	10:00-13:00、18:00-20:00	5	226	162
5月26日	月	9:00-10:00、17:00-22:00	6	251	183
5月27日	火	13:00-21:00	8	262	193
5月28日	水	10:00-12:00、17:00-21:00	6	272	201
5月29日	木	8:00-9:00、17:00-21:00	5	273	0
5月30日	金	8:00-9:00、20:00-21:00	2	0	0
5月31日	土	11:00-13:00	2	275	203
6月6日	金	12:00-17:00、19:00-22:00	8	279	207
6月7日	土	10:00-12:00	2	281	209
6月9日	月	17:00-19:00	2	0	0
6月10日	火	18:00-21:00	3	291	217
6月11日	水	19:00-21:00	2	0	0
6月12日	木	16:00-20:00	4	293	219
6月13日	金	13:00-13:30、18:30-20:00	2	296	221
6月14日	土	18:00-20:00	2	298	223
6月15日	日	17:00-19:00	2	299	224
6月19日	木	18:00-20:00	2	300	225
6月20日	金	17:00-19:00	2	303	227
6月23日	月	18:00-19:00	1	305	229
計			141.5	305*	229*

*「居住状況調査」の調査終了数 305 及び「就学実態調査」の調査終了数 229 のうち、調査実施中の「独自把握」22 人分（うち、日本国籍保有者 8 人⁵⁸⁾）を含む。なお、「独自把握」した対象者については、今回の対象者から除外した。

⁵⁸⁾ 中間報告の数と異なる。後期調査実施により、日本国籍保有者（中国残留孤児、国際結婚の子ども）、同一人物への重複調査の計 3 名について詳細が判明し、対象者から除外した。

表 2 2003 年後期の実施時間と調査終了数

月 日	曜日	調査実施時間		調査終了数(累積数)	
		時間帯	計(時)	居住状況調査	就学実態調査
10月9日	木	10:00-10:30, 16:00-22:30	7	15	6
10月10日	金	11:00-23:00	12	48	29
10月11日	土	19:00-22:30	3.5	63	39
10月12日	日	11:00-22:20	11.5	89	61
10月13日	月	9:00-21:30	12.5	119	80
10月14日	火	12:00-15:00, 16:00-21:30	8.5	129	87
10月15日	水	10:00-13:00, 16:00-22:30	9.5	163	114
10月16日	木	9:30-13:00, 18:30-22:00	7	188	135
10月17日	金	9:00-13:00, 17:00-23:00	10	225	159
10月18日	土	9:00-22:30	13.5	249	178
10月19日	日	10:00-18:00	8	259	187
10月20日	月	17:00-22:30	5.5	265	195
10月21日	火	10:30-11:30, 19:00-21:00	3	271	199
10月22日	水	19:00-21:00	3	274	201
10月23日	木	9:30-10:00, 18:00-21:00	3.5	278	203
10月24日	金	10:00-22:00	12	291	212
10月25日	土	10:00-13:00, 18:00-22:00	7	296	214
10月26日	日	13:00-14:00, 18:00-21:00	4	313	222
10月27日	月	11:00-13:00, 19:00-22:00	5	318	229
10月28日	火	13:00-14:00, 20:00-22:00	3	319	231
10月29日	水	13:00-15:00, 17:30-19:30, 21:00-22:00	5	321	233
10月30日	木	9:30-12:00	2.5	324	237
11月1日	土	11:00-11:30, 13:30-14:30, 18:00-18:30	2	329	240
11月2日	日	20:00-21:00	1	331	241
11月3日	月	10:00-14:00, 20:00~21:00	5	334	244
11月4日	火	20:00-21:00	1	335	0
11月6日	木	17:00-18:00	1	336	245
計			166.5	336*	245*

*「居住状況調査」の調査終了数 336 及び「就学実態調査」の調査終了数 245 のうち、調査実施中の「独自把握」18 人分(うち、日本国籍保有者 11 人)を含む。なお、「独自把握」した対象者については、今回の対象者から除外した。

表3 2004年度の実施時間と調査終了数

月日		調査実施時間		居住 状況 調査	就学実態調査		進路 調査	調査中に把 握した子ども
			計 (時/分)		子ども	保護者		
10月1日	金	19-23	4.00	16	10	7		2
10月2日	土	10-23	13.00	69	42	42	5	4
10月3日	日	13:30-22:30	9.00	28	19	19	2	1
10月4日	月	17-22:30	5.30	9	3	10	3	1
10月5日	火	18-23	5.00	19	19	12	1	
10月6日	水	11-13,17-23	8.00	22	14	17	3	
10月7日	木	18-19,20:30-22:00	2.30	3	2	1		
10月8日	金	11-13,17-23:30	8.30	13	12	10	2	
10月9日	土	10-23	13.00	44	29	30	6	
10月10日	日	14:50-23:30	9.20	23	17	22	3	
10月11日	月	10-20:30	10.30	26	10	11	3	1
10月12日	火	18-23	5.00	1		1	1	
10月13日	水	11-23	12.00	19	24	17	5	1
10月14日	木	18-21	3.00	16	8	10		
10月15日	金	9-13,19-21	6.00	22	16	15	3	1
10月16日	土	9-12,13-14:30,16-22	10.30	13	15	17	8	
10月17日	日	9-15,20-21	7.00	4	7	5	2	
10月18日	月	9:30-11:30,16-17:50,19-21	5.50	2	3	6	2	
10月19日	火	14-15:30,17:20-19:30,21-22:30	5.40	5	5	4	2	
10月20日	水	12:30-13	0.30					
10月21日	木	19-19:30	0.30	3	2	2		
10月22日	金	9:30-11,20-21:15	2.45	1	1	1		
10月23日	土	11:30-12:30,16-17,19-20	3.00	9	7	7		
10月24日	日	9:55-10:15,14-15,18-18:30	1.50	2	2	1		
10月25日	月	19-19:30	0.30				1	
10月26日	火	19-20	1.00					
10月27日	水	21-21:30	0.30					
10月28日	木	-	0.00					
10月29日	金	19-19:30	0.30					
10月30日	土	10-12	2.00					
10月31日	日	18-19	1.00	1	1	1		
計			154.05	370	268	268	52	11

参考資料① 映像について

ETV 特集 2020年6月27日放送（再放送 7/2, 8/29, 9/3）

「すべての子どもに学ぶ場を～ある中学校と外国人生徒の歳月～」

出典／NHK ETV 特集番組紹介ページより抜粋

https://www.nhk.jp/p/etv21c/ts/M2ZWLQ6RQP/episode/te/Y33WM1P58P/?fbclid=IwAR2ISK-2nL9k2wSK1vBqcGP_1_S8P1uTgK-q8esR8a-TjaV4VBls4_AMD8E

去年国が行った外国人の子どもの調査で、学校に在籍すらしていない不就学の児童生徒が全国におよそ2万人いることが明らかになった。外国人の子どもは義務教育の対象外。対応は自治体に任されている。

そうした中、岐阜県可児市では、外国人の子どもを一人も取り残さず学校につながる独自の取り組みを続けてきた。不就学ゼロはどのように実現したのか。奮闘する学校現場の1年を追った。

語り：水曜日のカンパネラ コムアイ

×

ETV特集「すべての子どもに学ぶ場を～ある中学校と外国人生徒の歳月～」

[NHKEテレ1・東京] 2020年07月02日 午前0:00 - 午前1:00 (60分)



全ての外国籍の子どもに教育を！20年近く

2006年9月4日 中日新聞岐阜県版コラム「鵜の目」より

可児市教育委員会で、外国人児童生徒の教育コーディネーターとして勤務してきた女性職員が退職した。九月からは、名古屋市の愛知淑徳大学で教員として働いている。

彼女は三年半前に関西から可児にきた。当時は市職員ではなく大学院生の身分で、外国人の「不就学」について調査していた。国内で初めて実施された外国人の教育問題の本格的調査で、結果は本紙でも報じた。

彼女が来てから、可児市は変わった。多くの方が外国人の教育問



鵜の目

別れ (田中 篤至)

題に興味を持ち、改革に乗り出した。語学指導や適応指導をすすめるためのプレスクールを設置し、外国人登録に来た人は市教委の窓口で導かれ、学校の制度について学べるようになった。外国人教育の先進地として、全国から視察が相次いでいる。「大学院生」が、十万都市の行政を動かす原動力になるさまは取材していて圧巻だった。

別れ際の言葉は「勉強したいブラジル人の若者が多い。大学で働いたら進学させられるかも」。心からエールを送りたい。

新聞記者というお立場から私の活動を応援してくださった田中篤至さん。田中さんが何度も繰り返し無名の私の活動を報道くださったことで、可児市民の外国人の不就学問題への関心が高まりました。

この記事(コラム)を読んだ知り合いから掲載日の朝に連絡をもらい、私は初めてこのコラムの存在を知りました。当日のサプライズにしてくださったことから、田中さんのハートを感じちゃいます。このコラムは、私の宝物の1つです♡

にほんでいきる

子どもたちの暮らしから垣間見た世界の「今」

毎日新聞 2019年2月10日 03時00分（最終更新 2月10日 03時16分）



小島祥美さんが25年前、埼玉県八潮市の小学校で担当した外国籍の児童たち＝奥山はるな撮影

愛知淑徳大（名古屋市）にある小島祥美准教授（45）の研究室には、これまで関わってきた外国籍の子どもの写真が何枚も飾られている。中でも古いのは、25年前に小学校の教員をしていた時、ベトナムから逃れてきた「ボートピープル」の3人の姉弟と撮影した1枚だ。

短大卒業後の1994年、20歳で埼玉県八潮市の小学校に赴任し、3人に会った。ベトナム戦争後の社会の混乱を逃れるために、両親は小さなボートでの出国を決意したという。

小島さんは「ボートピープル」が存在することに驚いた。家庭訪問で話を聞くと、ヨーロッパに逃げた親戚が海賊に襲われたこと、ベトナム戦争で米軍が散布した枯れ葉剤の影響で結合双生児として生まれた「ベトちゃんドクちゃん」のような子どもがたくさんいたことなどを聞かされた。



「不就学の調査によって外国籍の子どもに何が必要か見えてきた」と語る愛知淑徳大の小島祥美准教授＝名古屋市千種区で、大西岳彦撮影

90年の入管法改正を機に来日した日系ブラジル人の少年もいた。「ブラジルにも日系人がいるの?」。そう尋ねると少年は「サムライ、ニンジャ、テンノウ、スモウ、オハギ……」と知っている限りの日本語を話した。祖父母は第二次世界大戦前、日本からブラジルに移住し、厳しい生活の中で少年に日本語を伝えていた。

フィリピンから来た少女の母親は、パブで働いていた。アキノ政権後期の急激なインフレで市民の生活は混乱し、出稼ぎに来た母親の送金で、母国にいる多くの親戚たちが食いつないでいた。子どもたちの暮らしから、世界の「今」

を垣間見た。

「子どもたちの育った国を、この目で見てきたい」と思い立ち96年3月、22歳で教員を辞めて大阪外国語大の中南米地域文化学科に入学。すぐに世界一周の旅に出た。



ベトナムから来た3姉弟と小島祥美さん
(左上) = 奥山はるな撮影

南米各国を訪れると、現地に住む多くの人から「日本は大丈夫なのか」と聞かれた。前年に起きた阪神大震災の影響を心配する声だった。異国で生活する同郷の人々を案じる姿に直面し、半年あまりで帰国。その後、神戸市で被災した外国人を支援するボランティア活動に加わり、不就学児に出会った。

不就学の問題を解決し、いつかベトナムの3姉弟に会って、日本は外国籍の子どもを受け入れる国に変わったと伝えたい。そんな希望が、小島さんの原動力になっている。【奥山はるな】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。画像データは(株)フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.



にほんでいきる

外国からきた子どもたち 支援届けた全戸訪問 震災契機、岐阜で成果

毎日新聞 2019年2月10日 大阪朝刊

日本に住民登録がありながら就学不明になっている外国籍の子どもについて、岐阜県可児市は全国に先駆けて2003年から全世帯の訪問調査をしてきた。中心になってきたのは愛知淑徳大の小島祥美（よしみ）准教授（45）だ。調査によって、学校に通い続けるのが難しく、15歳未満で就労や妊娠するケースも明らかになり、教育支援の充実につながった。

【奥山はるな】

小島さんが初めて外国籍の不就学児に出会ったのは、大阪外国語大（現大阪大）の学生だった1998年。阪神大震災（95年）で被災した外国人を支援するボランティアに参加し、訪れた神戸市のアパートの一室に10人ほどの子どもがいた。年齢は3～10歳くらい。「何をしてるの？」と聞くと、ポルトガル語で返事が返ってきた。「パパとママの帰りを待ってる」

子どもたちは日系ブラジル人やペルー人で、親は食品工場で働いていた。市や兵庫県の教育委員会に連絡しても「学校に来させる権限がない」と繰り返された。外国籍の親に子どもを就学させる義務がないと初めて知った。

不就学の子どもの減らしたいという気持ちが募り、00年4月に大阪大大学院の人間科学研究科に進んだ。その後、製造業が盛んで派遣などの有期雇用の外国人が多く住む可児市の職員と知り合った。話を聞く中でモデルケースになる地域と考え、市に調査したいと申し出た。市内に転居し、03年4月に訪問調査を始めた。

調査には市や市教委、国際交流協会などが協力した。就学年齢の子どもの半年おきに訪問し、就学状況を確認すると、そのたびに不就学児の数が増えていった。転入児童が就学していないというケースに加え、最初の調査では就学していても次の調査時には学校に通っていない子どもも多かったためだ。04年秋の調査時の不就学児は25人。市内に住む外国籍の子どもの6・8%だった。

不就学児の大半は13～15歳。中学校に通わない理由を聞くと、こんな答えが返ってきた。「頑張ってひらがなやカタカナを覚えても、漢字が交じる問題文が読めないからテストは0点。高校に行く子なんて見たことない」。年齢をごまかして工場で働いたり妊娠したりする子どももいた。

保護者の多くは不規則な勤務形態で子どもに十分に目が届いていなかった。教育に関心はあったが、解雇への不安から「高校進学など先のことを考えられない」と話す人もいた。

調査結果を受け、当時の可児市長が「不就学ゼロを目指す」と宣言。小島さんは05年度、市の初代外国人児童生徒コーディネーターに就任した。市内には日本語を初歩から教える「ばら教室KAN I」が新設され、小中学校の「国際教室」が拡充された。国際交流協会にも就学支援教室が設けられ、調査も継続している。

可児市の人口約10万2200人のうち外国人は約7460人。市が外国籍児の支援を強化してから10年あまりたち、小島さんは「成果が見えてきた」と感じている。高校に進学する子が現れ、就職して家庭を築き、納税者として街を支えるようになった。派遣社員でなく正社員として採用する企業も出てきた。

こうした取り組みを進める自治体は、全国的にはまだ少ない。小島さんは言う。「地方の人口が減っていく中、外国から働きに来た人を迎え入れ『地元』と感じてもらえたら、持続可能な街になる。その入り口が学校の中で子どもを育てることではないでしょうか」

家族のためにも定期的な内視鏡検査を受けてほしいと、つるの剛士さん語る

Sponsored by オリンパス

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.